

2023. 春 綾部市老富の花、二題 ミツマタ & シャガ 大西清見

(泉州労山『やまなかま』6月号より転載)

京都府綾部市老富（おいとみ）地区は綾部市北東部に位置し、福井県にも隣接する静かな山里の集落です。水源の里としても知られる老富は、ミツマタとシャガという花の群生地知られています。杉林の合間から光が指すその圧倒的な美しさから「神秘の森」とも呼ばれており、毎年3月下旬～4月上旬にはミツマタ、4月下旬～5月上旬にはシャガが杉林一面を埋め尽くし、幻想的な光景に包まれた森を散策しに全国から多くの人々が訪れます。今年になってこの二つの花の季節に、3月25日（土）のミツマタには大阪労山の山仲間と、5月4日（木）のシャガには高石市の仲間4名で二つの花を楽しむことができました。

3月26日、連盟の戦跡ハイキングとして綾部市北東部の老富地区のミツマタ群生地を日帰りで行くことにしました。参加者は6名（キタロウ、KONK、ハイジ、こもれび、福島、泉州）、マイカーに分乗して綾部へ。綾部市老富では、黄色い可憐なミツマタが杉林一面を覆い、山の斜面は他で見たことのないような光景でまさに圧巻でした、参加された方もミツマタの群生は想像以上で来年は会山行で大勢を連れてきたい、と仰っていました。ミツマタは、その枝が必ず三又、3つに分かれる特徴があるため「ミツマタ」と名付けられました。皮は和紙や紙幣の原料として使われます。黄色い部分は花びらではなく、4枚の萼（ガク）をもつ花のあつまりです。ミツマタのシーズンが終わると、更にほぼ同じ場所の奥地で見渡す限りの神秘的な白いシャガが眼前に広がる風景に出会えます。



山の斜面が鮮やかな黄色に…ミツマタです



谷間を埋め尽くすシャガの群生

5月4日には老富の奥地の谷間に広がるシャガの群生地を訪ねました。現地の管理人さんは「今年は新芽の段階で鹿に食べられてシャガは少な目ですが…」と仰っていましたが、それでも谷間をシャガが埋め尽くして多くの観光客を楽しませてくれました。

シャガは人家近くの森林周辺の木陰などの、やや湿ったところに群生するそうです。開花期は4～5月ごろで、白っぽい紫のアヤメに似た花をつけ、花弁に濃い紫と黄色の模様があります。シャガは冬でも枯れない常緑性の多年草。花は短命で1日もしばんでしまいますが、次々と新しい花をさかせるそうです。

この綾部市老富の集落は、3月下旬から5月中旬のミツマタ・シャガの開花シーズンには休憩所「花やどり」を開設し、あったかいぜんざいやコーヒーなどが用意されています。人口減少が進むこの集落ではみんなで協力をして多くの人を心から歓迎しています。この老富でたった一人の小学生（3年女子）も来訪者のカウントの作業を笑顔で手伝っていました。